



まんだらげ

Vol. **60**
2022 SPRING



桜と和歌浦（和歌山市）

Contents

- 特集** …… Patient Flow Management の充実
～外来からの入退院支援～
- 就任挨拶** …… 小児科学講座 教授
- Topics** …… 心筋肥大を来す心筋症に対する専門的な診療を
提供する外来の開設について
災害時における食料等の調達に関する協定締結
- Information** …… 免疫不全を伴う自己炎症性疾患の発見とそのモデルマウ
スの樹立／血中中性脂肪値を調節するメカニズムを解明

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

理念

私たちは安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

基本方針

- 1 患者さんとの信頼関係を大切にし、十分な説明と同意のもとに、安全で心のコもった医療を行います。
- 2 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
- 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
- 4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

Patient Flow Managementの

Patient Flow Management (PFM) とは

Patient Flow Management (PFM) とは、予定入院患者さんの情報を入院前に把握し、問題解決に早期に着手すると同時に、病床の管理を合理的に行うことなどを目的とした入退院管理の仕組みのことで、外来の時点から組織横断的に患者さんの入退院を支援するものです。早い段階で患者さんのリスク評価を適切に行うことができるため、医療安全の向上や患者さん及び家族の不安・ストレスの軽減につながります。

当院では、入院センター及び周術期外来（令和4年2月1日に新たに開設）が PFM 部門を担っています。入院センターでは、入院生活の説明、入院前に利用していた介護・福祉サービスの把握、転倒・転落リスクの評価、認知症・せん妄の評価、使用中の薬剤やアレルギーに関する情報収集などを行っています。また周術期外来では、耐糖能や循環器等の異常の有無・腎臓機能に関する評価などを実施しています。

PFM フロー（入院決定から入院までの流れ）について

PFMにおいては、「患者さんの流れ」という観点から、窓口を一本化し、一つの場所で各種手続きができる仕組みを整えています。当院での入院決定から入院までの患者さんの PFM フローは4つの部門から構成されています(図1)。そのうち PFM ①～③は入院センター

内で完結するように配置しています(図2)。また手術を受ける患者さんは PFM ④での術前評価、手術前日に行う麻酔科の術前診察を受けていただきます。

入院当日は総合受付②番で手続きを行います。



手術を受ける患者さんのみ

図1

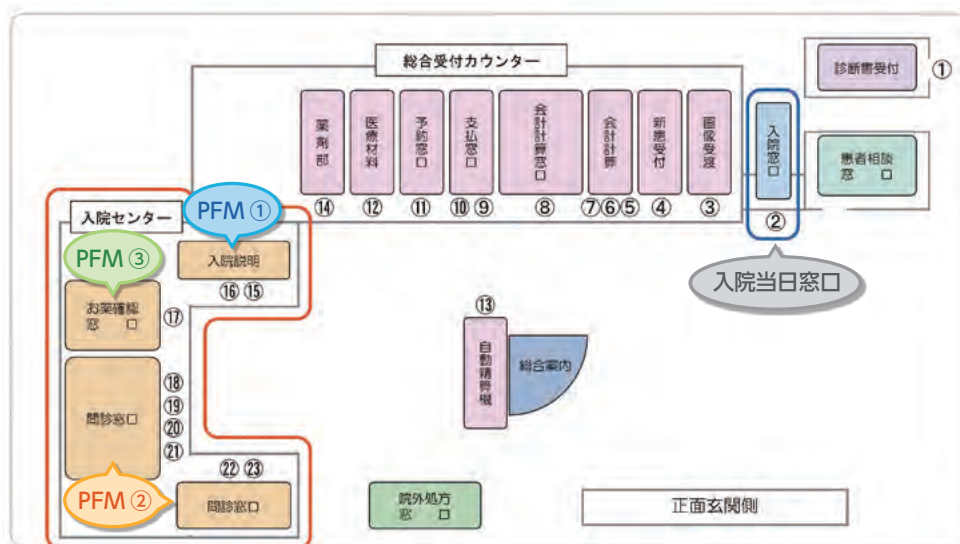


図2

充実～外来からの入退院支援～

PFM ① 入院説明

各診療科の外来で入院が決定した患者さんには、まず入院センターの入院説明窓口で、入院に関する手続きについて案内します。また、入院生活や入院に際してご準備いただく物品等について説明を行います。入院案内や入院時の注意事項等については、入院センターに設置したモニターでも案内しています。

PFM ② 問診窓口

問診窓口では、予めご記入いただいた問診票（各外来で配布）に基づき、看護師が患者さんの日常生活（嗜好品や睡眠の状況、食事など）や利用している介護サービス、退院先の希望などについて確認します。令和3年9月からは対象診療科を全診療科に拡大しています。また、65歳以上の方には、もの忘れ問診票及びMMSEという認知機能評価にもご協力をお願いしています。さらに、せん妄（入院や手



術などで心身に負担がかかった時に起こる一時的な混乱や意識障害)を予防するため、せん妄リスク評価を行うとともに、せん妄予防に関するパンフレットも配布しています。入院前から様々な情報を収集することで、入院中の患者さんのリスクを減らすとともに、収集した情報をもとに療養計画を立てることで、退院後も安心して生活していただけるよう努めています。

PFM ③ お薬確認窓口

お薬確認窓口では、外科系診療科の患者さんに、服用中のお薬やアレルギーに関する情報をお聞きしています。また、手術などに影響を及ぼす血液をサラサラにする薬などは、適切に服用中止ができていないと、手術の延期が必要となる場合があるため、中止薬の説明や使用状況の確認を行っています。確認を円滑に行うためにも、**来院の際には必ずお薬や健康食品、お薬手帳をお持ちいただくようお願いします。**



入院センターでは、対話支援システムを導入しています。このシステムを使用すると、マイクに入力された音がクリアな音声に変換されるため、周りがざわざわした環境でも聴き取りやすく、会話をスムーズに行うことができます。

入院センターの他、総合受付にも設置しています。窓口での会話を不安に感じられている方も安心してお話ししていただけます。

PFM ④ 周術期外来



図3



当院では、令和4年2月1日に周術期外来を開設しました。周術期外来とは、麻酔科管理症例手術を受けることが決定した患者さんに対して、入院前に実施する看護師による外来診察です。全ての情報が揃った状態で行う必要があるため、PFM ①～③とは別の日に行います。場所は附属病院4階の麻酔科・ペインクリニック・周術期外来です(図3)。現在は週2回(水・金)で、泌尿器科のみの運用ですが、今後対象診療科を拡大していく予定です。

周術期外来では、看護師が入院・手術についての受け止めについて聴取を行う他、診療録シートを用いて、身体・精神状態に係る問診や呼吸障害の有無、循環器異常の有無等に関する評価(スクリーニング)を行います。スクリーニングの結果、他診療科での診察が必要と判断された場合は、各診療科の予約を行い、同日に診察を受けていただきます。また、歯科衛生士による口腔衛生状態のスクリーニングも実施します。手術前にしっかりリスクを評価することで、安心して手術を受けていただくことができます。また、入院中のスケジュールや入院までの過ごし方についても説明しますので、不安があれば気軽に相談してください。

周術期外来の流れ

予約日時に直接4階の周術期外来へ

身長・体重測定

周術期外来の目的の説明

入院・手術についての受け止めについて聴取

診療録シートに沿って問診・スクリーニング

- ・問診、視診、触診、聴診
- ・喫煙状況や呼吸障害の有無に関する評価
- ・耐糖能異常の有無に関する評価
- ・循環器異常の有無に関する評価
- ・腎臓機能に関する評価
- ・運動機能に関する評価

患者用パスに沿って入院中のスケジュールについて説明

入院までの過ごし方の指導

歯科口腔外科外来での歯科口腔チェック

(スクリーニングの結果、他診療科での診察が必要な場合は、紹介先の診療科外来へ)



周術期外来のご案内

当院では2022年2月から周術期外来を開設しています。

周術期外来とは

手術が決定した患者さんに対して、入院前に行います。看護師による外来診察です。

なぜするのか

手術をする患者さんが、より安全な手術を、安心して受けられるようにするためです。

なにをするのか

入院前の日常生活の注意点や入院後のスケジュールの説明などのほか、歯のチェックや現在の身体の状態を確認するための診察を行います。診察の結果によっては、手術をしてもらう診療科以外の医師が診察を行います。

安心して手術に臨めるようサポートします。

ご不明な点など、何でもご相談ください。

周術期外来 073-447-2300(代) 内線(2437)



地域小児医療と小児科学研究の両立



小児科学講座
教授 徳原 大介

令和4年1月1日付けで和歌山県立医科大学小児科学講座教授を拝命いたしました。就任にあたり、ご挨拶申し上げます。

講座教授として私が目指すものは「地域小児医療と小児科学研究の両立」です。和歌山県の子ども人口は少なくなっていますが、その一方で診断技術の進歩や救命率の向上によって小児医療は複雑化し、新生児医療含め高度な医療が必要となっています。さらに、虐待・不登校・摂食障害・発達障害も和歌山県内で

は増加の傾向にあり、身体面の治療だけでなく、心理・社会面も含めた支援の重要性が年々増しております。それらの課題に対応するため、質の高い小児科医師の育成と地域小児医療体制の整備と強化が重要と考えております。また、診療所・病院からご紹介いただいた患者さんの診療を介して得た新たな知見を世の中に還元するとともに、生じた疑問点や課題を研究によって解決し、新たな診断・治療技術を確立することも大学病院の大きな使命と考えております。そのため、地域小児医療体制を整備するとともに、グローバルな視野と研究マインドを持つ医療人・研究者の育成、ならびに基礎・臨床研究を基盤とした橋渡し研究を推進し、診療・研究の両面から和歌山県の小児医療の発展に貢献してまいります。

経歴

平成10年3月 関西医科大学 卒業
 平成10年4月 関西医科大学 小児科 入局
 平成10年6月 関西医科大学附属病院 小児科 研修医
 平成13年8月 大阪市立住吉市民病院 小児科
 前期臨床研究医
 平成18年3月 大阪市立大学 大学院 医学研究科
 博士課程修了（医学博士）
 平成18年4月 大阪市立大学 医学部附属病院 小児科
 前期臨床研究医
 平成19年4月 東京大学 医科学研究所 粘膜免疫学部門
 研究生

平成20年7月 東京大学 医科学研究所 粘膜免疫学部門
 博士研究員
 平成22年8月 米国アラバマ大学 バーミングハム校免疫ワ
 チンセンター 客員研究員
 平成24年4月 大阪市立大学 大学院 医学研究科
 発達小児医学 講師
 平成30年4月 米国カリフォルニア大学 サンディエゴ校消化
 器内科学 客員研究員
 令和元年7月 大阪市立大学 大学院 医学研究科
 発達小児医学 准教授
 令和4年1月 和歌山県立医科大学 小児科学講座 教授

診療内容

新生児、循環器、小児がん・血液、腎、神経、内分泌、消化器肝臓など多岐にわたる小児専門診療分野の専門医が最先端の知識と技術を駆使して診断・治療にあたっています。また、複数の診療科にまたがる子どもの疾患に対して緊密な連携を行い対応するため小児医療センターを

設置しており、医師のみならず看護師、子ども療養支援士、保育士、栄養士、薬剤師といったコメディカルによる多職種連携によって、様々な角度から専門的に病気の子どものその家族を支援し信頼される医療体制の構築を目指しています。

心筋肥大を来す心筋症(肥大型心筋症、心アミロイドーシス、心サルコイドーシスなど)に対する専門的な診療を提供する外来の開設について

当院の循環器内科では、2022年4月から「心筋肥大を来す心筋症(肥大型心筋症、心アミロイドーシス、心サルコイドーシスなど)に対する専門的な診療を提供する外来」を水曜日午前4診で開設します。担当は循環器内科助教の太田慎吾です。

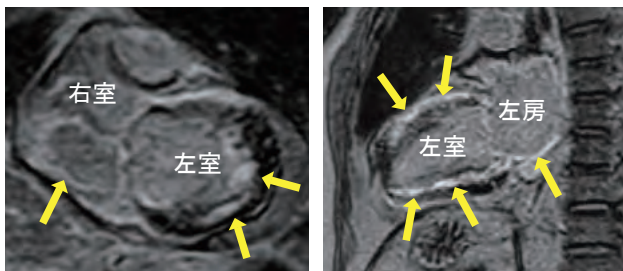
心筋肥大を来す心筋症は、心臓の筋肉そのものが肥大し心臓の機能異常が生じる疾患です。その原因として肥大型心筋症、心アミロイドーシス、心サルコイドーシスなどの疾患が知られています。いずれの疾患も、無症状、心不全による息切れ、あるいは危険な不整脈による突然死など、多彩な症状を呈するため、症状だけで診断することは困難で、多くは厚生労働省が指定

する指定難病になっています。しかし、例えば遺伝子の異常が原因の肥大型心筋症は、500人から1000人に1人が罹患すると言われてはいますが、診断されていない患者さんが多く存在すると考えられます。

当科では患者さんの身体的負担が少ない心臓超音波検査や心臓MRI検査などの画像診断法を駆使し、心筋肥大を来す心筋症の診断を行い、最新のエビデンスに基づく治療を提供しております。

学校検診や健康診断で心肥大を指摘された方、あるいはご家族の中で心筋症を指摘されたことのある方は、是非、お気軽にご相談ください。

心臓MRI検査



心臓MRI検査で、左室、右室、左房の壁に広範囲なアミロイドーシス蓄積を認める。

ピロリン酸シンチ検査



ATTR型アミロイドーシスでは、心臓へのピロリン酸集積を認める。

災害時における食料等の調達に関する協定締結

当院は和歌山県の基幹災害拠点病院に指定されており、大規模災害発生時には県内における災害医療の中核病院としての役割が期待されています。災害発生時には、病院機能を維持するため勤務する職員の食料の確保が重要であり、この度、県内で食料品等の小売事業を営むエバグリーン廣甚株式会社と災害時における食料等の調達に関する協定締結を行いました。

当院では、地震や津波、風水害などの災害に備え、職員向けの食料や飲料水を災害発生から3日分備蓄していますが、病院機能の一層の強化を図るため、同社に連携・協力の申入れを行ったものです。この協定により、大規模災害発生時、当院から食料品や飲料水、医薬品など必要な物資の供給に係る要請を行った場合、同社が保有する物資を優先的に供給していただくこととなります。

2月1日に行われた協定締結式では、本学の宮下和

久理事長から、「南海トラフ巨大地震が懸念される中で物資を優先的に供給いただけるのは大変心強い」と、同社の米原まき社長に感謝の意を示しました。これに対し、米原社長からは「小売業としてライフラインを支える使命を果たすため、自治体や医療機関と連携を取って従業員全員で最善の努力をしたい」とのお話をいただきました。職員の食料確保について災害協定を結ぶのは今回が初めてでしたが、今後も基幹災害拠点病院としての備えを万全にし、県民の皆さまの期待に添えるよう努めてまいります。



宮下和久理事長(左)と米原まき社長

免疫不全を伴う自己炎症性疾患の発見とそのモデルマウスの樹立

生体の恒常性維持には、不要になった、あるいはうまく合成できなかったタンパク質の分解処理が必要です。この分解処理に関わる酵素複合体（プロテアソーム）の遺伝子の違いにより、難治性の炎症性疾患が発症することがわかっています。この病気は、発見者である和歌山医大皮膚科西村長應先生に因んで中條・西村症候群と命名され、今では世界各地の症例と合わせプロテアソーム関連自己炎症性症候群（PRAAS）と総称されています。しかし、これまで適切なモデルマウスがなく、どのような機構で病態が生じるかについては、わかっていませんでした。

このような中、兵庫医科大学皮膚科学講座の金澤伸雄教授（2020年9月末まで和歌山県立医科大学皮膚科学准教授）及び和歌山県立医科大学先端医学研究所生体調節機構研究部の改正恒康教授らの研究グループは、PRAASのような炎症症状を示しながらも、PRAASとは異なり、重症肺高血圧やリンパ球減少（免疫不全）を伴う、独立した2症例について、詳細な遺伝子解析を行い、プロテアソームサブユニットの新しい遺伝子変異を2症例に特異的かつ共通に見出しました。さらにこの遺伝子変異を導入したマウスで患者の病状が再現されたことから、この変異が

病態の原因であることが明らかになりました。

今回の2症例が従来のPRAASとは似て非なる病態を示したことから、研究グループは、免疫不全（Immunodeficiency）を伴う自己炎症性疾患（PRAAS-ID）という新たな疾患概念を提唱しています。またモデルマウスの解析により、今後、PRAASはもちろん、神経変性疾患やがんなどプロテアソーム異常を来す様々な病態に関してもメカニズムの解明や治療法の開発が進むことが期待されます。



兵庫医科大学皮膚科学講座 金澤伸雄教授（左）
及び生体調節機構研究部 改正恒康教授

血中中性脂肪値を調節するメカニズムを解明

血液中の中性脂肪値は、高いと動脈硬化を招き、低いと心臓のエネルギー不足を引き起こします。膵臓から分泌されるインスリンが血糖値を下げることはよく知られていますが、中性脂肪値を調整するホルモンについてはこれまで分かっていませんでした。一方、女性ホルモンとして知られるエストロゲンは、性ホルモンとしての役割以外に脂肪合成・脂肪の血中への放出を抑制し、脂肪の蓄積・消費を促進する

ことが分かっています。また、本学解剖学第1講座の故・上山敬司前教授は、胃の壁細胞がエストロゲンを分泌することを発見しましたが、その役割については長い間不明でした。

これらのことに着目した同講座の金井克光教授らの研究グループは、エストロゲンを分泌する壁細胞が糖ではなく脂肪をエネルギー源として使っていることを見出し、オスラット及び卵巣切除したメスラットにオリーブオイルを飲ませて血中エストロゲン値を調べる実験を行いました。その結果、血中中性脂肪値の上昇に伴い、血中エストロゲン値も上昇しており、また胃切除ラットでは血中エストロゲン値に変化が見られなかったことから、エストロゲン値の上昇は胃からのエストロゲンの分泌によるものだということが明らかになりました。

今回の研究結果は、脂質代謝調節についての新たなメカニズムの発見であり、エストロゲンが関わる様々な病態への理解を深めることで、新たな治療法の開発につながることを期待されます。



金井克光教授（左）と伊藤隆雄助教

予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「予約制」とさせていただいております。
ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などから FAX でお申し込みください。

■医療機関からのご予約

- ① かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」にて電話予約センターに FAX 送信してください。
- ② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関に FAX 返信いたします。
- ③ 予約当日は、予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)・服用中のお薬・お薬手帳をご持参のうえ、外来受付に直接お越しください。

■ご本人からのご予約

- ① かかりつけの医療機関などで紹介状をご用意ください。
※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「〇〇科 〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- ② 「当院予約センター」に直接お電話ください。
- ③ 予約当日は、紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)・服用中のお薬・お薬手帳をご持参のうえ、外来受付に直接お越しください。

電話予約センター (患者支援センター)

TEL 073-441-0489
(受付時間:月～金 8:30～16:00)

FAX 073-441-0805
(受付時間:月・火・水・金 9:00～19:00 / 木 9:00～17:00)

※院内に予約窓口も開設しています。(月～金 9:30～17:00)

手指衛生について



感染症対策においては、こまめに手を洗うことが重要ですが、ウイルスや細菌の増殖を防ぐためには、洗った後に手をよく乾かすことが大切です。石けん等で洗った後は、十分に水で流し、清潔なタオルできれいに拭き取りましょう。なお、当院に入院される際は、タオル類を用意していませんので、手拭き用タオル・フェイスタオルをご準備いただきますようお願いいたします。

患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざまな医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

- 受付時間 午前8時50分～午前11時30分
 - 再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
 - 休診日/土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
- ※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。